



## 水産情報速報版

H17.12.9 1172

静岡県漁業協同組合連合会  
☎054-254-6011 Fax054-253-9343  
編集・発行 = 指導部 漁政課  
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

### 1. 第11回県青年・女性漁業者交流大会開催 県知事賞に浜名漁協採貝組合連合会

県並びに本会主催(後援: 県信漁連)による第11回静岡県青年・女性漁業者交流大会が12月2日もくせい会館(静岡市)において、県下漁協青壮年部・女性部員約100人が参加して開催されました。

今大会は、「エビと共に、未来に想いを馳せる～イセエビ小型個体の有効利用について～」南伊豆町漁協青年部 佐藤新吾氏 「浜名湖のアサリを守る」浜名漁協採貝組合連合会 鈴木庄司氏 「地域資源を活用した特産加工品の開発」焼津蒲鉾商工業協同組合商品開発研究会 池ノ谷政利氏 「静岡県漁業協同組合女性部連合会のこの10年の活動を振り返って～女性部連合会の50周年を迎えるにあたって～」JF静岡女性連山本節子氏の4件の発表と「養殖水産物の付加価値向上に関する先進地視察報告」(内浦重須地区水産資源増殖会 大沼健一氏)と題した県外先進地視察報告が行われたほか、「缶詰の内面腐食(さび)の調査・研究」(県立焼津水産高等学校食品科学科3年 山田恒輔君)の研究発表が行われました。

それぞれ4件の発表は、審査委員7名(審査委員長: 大石恒治県水産試験場長)により厳正な審査が行われた結果、浜名漁協採貝組合連合会が「アサリのサイズによる水揚げ量制限、採貝組合の運営体制の見直し、大勢の漁業者が参加した砂茶わんの回収などによるツメタガイの駆除、稚貝の移植、遊漁者への啓発活動など、資源管理方策について幅広い活動を展開し、漁獲増と地域の重要漁業の維持発展に貢献した」と高く評価され、最優秀賞(県知事賞)に選ばれました。

また、同発表は明年3月8、9日開催予定の第11回全国青年・女性漁業者交流大会へ推薦されました。なお、4件の発表には県漁連会長賞が授与されました。

### 2. 平成16年の漁業生産額7年ぶりに増加 1兆6,049億円

農林水産省大臣官房統計部はこのほど、平成16年度の漁業生産額を公表しました。それによると、漁獲量の減少から減少傾向だった漁業生産額は、平成16年は総じて価格が上昇したことからわずかに増え、7年ぶりの増加となり1兆6,049億円(前年比0.9%増)の生産額となりました。

海面漁業における生産額は、1兆659億円で、前年に比べ2.8%増加し、このうち魚類の生産額は7,347億円(前年比2.9%増)で、生産額が増加した主な魚種は、カツオ693億円(22%増)、サケ類573億円(19.9%増)、マグロ類1,566億円(5.8%増)、サンマ229億円(31.9%増)でした。また、生産額が減少した主な魚種は、価格は上昇したものの、漁獲量が減少したシラスが202億円(19.9%減)、漁獲量が減少したことに加え価格が低下したカレイ類が309億円(11.4%減)でした。

海面養殖業における魚類養殖の生産額は1,965億円で、前年に比べ10.8%減少し、このうちブリ類の生産額は1,093億円で、収穫量が減少したことに加え、価格が低下したこと

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

## 自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

から前年に比べ10.8%減少しました。また、マダイの生産額は507億円で、ブリ類と同様収穫量が減少したことから前年に比べ1.7%減少しました。

内水面養殖業における生産額は519億円で、前年に比べ4.7%増加し、このうちウナギの生産額は251億円で、価格が上昇したことから前年に比べ13.8%増加しました。また、マス類の生産額は108億円(4.0%減)、アユの生産額は107億円(1.7%減)でした。

### 3. 県の試験研究機関の見直し 効率化へ統廃合

県は、1日開会した県議会12月定例会本会議で、県知事の提案説明の一環として、試験研究機関を見直す基本方針をまとめたことを明らかにしました。

基本方針では「環境森林」「保健衛生」「工業」「農業」「畜産」「水産」の各分野に分けて人材や資金、設備を集約し、現行の13試験場と15分場を、6研究所と8センター、3分場へと再編し、06年夏までに最終決定し、07年4月から新体制に移行する方針です。

「水産」は、水産試験場(焼津市)の機能を保ったまま、水産技術研究所に名称変更します。

### 4. 平成17年度養鰻研修会開催される

- 県養鰻協会 -

県養鰻協会では12月7日、養鰻業に関する技術の習得と知識の向上を図り、県内養鰻業者・養鰻漁協の経営維持安定と本県養鰻業の振興に資することを目的として、平成17年度養鰻研修会を吉田町立集落センター片岡会館で、養鰻業関係者ら約60人が出席して開催しました。

研修会は討論会形式で行われ、始めに「飼育問題」をテーマに協会企画委員会委員長中野剛吉氏が、次に「養鰻振興対策」をテーマに協会副会長白石嘉男氏が座長となり進行されました。養鰻振興対策では、経営体数の減少に伴う生産維持拡大、将来的な組合のあり方、担い手の確保など活発な意見交換が行われました。

### 5. 大型クラゲ出現概況 太平洋では出現なくなる

水産庁と水産総合研究センターでは、12月1日現在までの大型クラゲ出現状況などの集計速報を取りまとめました。それによると、大型クラゲは長崎県五島沖から北海道の日本海及び太平洋側の三陸沖を中心に出現が確認されていますが、鹿児島県から千葉県までの太平洋及び北海道オホーツク海では出現が見られなくなってきました。

来遊量は、福井県、秋田県および青森県では定置網1回の網揚げで5,000個体以上が入網したとの報告が寄せられている一方で、長崎県や山口県にかけての地域では出現量は次第に少なくなっています。また、へい死個体も多く入網するようになってきています。

漁業被害では、各地での漁労作業の遅延や漁獲物の鮮度低下などの被害報告が寄せられているほか、操業を中止している、底引網や定置網などで漁具が破損したとの報告が寄せられています。

### 6. 諸会議・日程(12月13日(火)～12月26日(月))

- 既報分省略 -

12月19日(月) 県漁連 = 平成17年度組合長会議要望事項・平成18年度水産予算編成に関する要望事項の県知事への陳情 (県庁)

12月22日(木) 県信漁連 = 理事会 (県水産会館)

” 県桜えび漁業組合 = 役員会 (静岡市)

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう